

すまうらこうえん  
須磨浦公園の自然

源平合戦(げんぺいがっせん)ゆかりの須磨浦(すまうら)には、ふるい歴史があります。平家物語によると、一ノ谷で平氏と源氏(げんじ)の戦いがあり、平敦盛(たいらのあつもり)が海に追いつめられ、うち死にしたと伝えられています。

須磨浦公園には桜(さくら)と松の林があり、花見シーズンには大ぜいの人でにぎわいます。海に向かって国道をトンネルでくぐると須磨海づり公園があります。山に向かうにはロープウェイうみひこ・やまひこが便利です。乗るとガタガタするカーレーター、ゆっくりとまわる回転展望台(かいてんてんぼうだい)があって昭和の空気が流れています。さらに鉢伏山(はちぶせやま)から観光リフトにゆられて須磨山上遊園にいけます。

須磨浦公園は関西を代表する56kmのロングトレイル「六甲縦走路(ろっこうじゅうそうろ)」のスタートで、ゴールの宝塚(たからづか)を目指して、ハイカーやトレイルランナーたちが集まります。

みなさんが手にとっているこのマップは、ながい夏休みから、すずしい秋風がふきはじめるまでの季節の自然観察ガイドマップです。夜のうちに土の中から出てきたセミの幼虫(ようちゅう)は、木のみきにとまり、静かにセミのすがたになります。そして朝早くからセミの合唱がはじまります。草むらにはバッタたちがいます。山にのぼるとやかましいクマゼミからミンミンゼミやツクツクボウシの声にかかります。木のえだにはキリギリスがいます。明るい遊歩道では、にじ色にかがやくタマムシが飛び、ハンミョウが道案内にきてくれます。鉢伏山や旗振山(はたふりやま)の草花には、るり色のハチがくることがありますよ。



ウバメガシの林  
尾根(おね)には、ウバメガシがびっしりです。

コナラの林  
コナラ、アベマキのほかカゴノキやカクレミノなどいろんな木が競争するように枝(えだ)をのばします。アブラゼミやミンミンゼミが鳴いています。明るいみちにはタマムシやハンミョウもいます。

クロマツの林  
松と桜の明るい広場になっています。クマゼミとアブラゼミが合唱しています。草むらにはバッタがいます。

アカマツの林  
潮風(しおかぜ)があたる南斜面(みなみしゃめん)には、アカマツやウバメガシが生えています。ミンミンゼミやツクツクボウシがよく鳴いています。キリギリスの仲間やゴミムシの仲間もいます。

ヒメガマの池  
ヒメガマが大きく育っています。チョウトンボがヒラヒラと飛んでいます。マルタンヤンマもやってきます。



おらが茶屋  
高倉台へ

鉄拐山

妙見堂跡

南洋植物園跡

一ノ谷町2丁目  
安徳帝内裏跡

一ノ谷町1丁目

須磨浦公園駅

バスロータリー

国道2号

山陽電鉄

JR山陽本線

須磨海づり公園

アオリイカ

旗振山

はりま駅

須磨山上遊園  
観光リフト

せつつ駅  
回転展望台

ヒグラシ

オオミズアオイ

ヒロバネカントン  
チョウトンボ

鉢伏山

鉢伏山上駅

ミンミンゼミ

シヨウリヨウバッタ

敦盛塚

六甲縦走路

ユミアシゴミムシダマシ

ゴマダラチョウ

ナミルリモンハナバチ

アオゲラ

ハンミョウ

ヤブキリ

ヤマトタマムシ

シジユウカラ

コシアカツバメ

キアゲハ

アブラゼミ

クマゼミ

とにかく暑いので、飲み物はわすれずに、  
かにさせないよう、虫よけもしていこう。  
家でかえない虫はにがしてあげようね。

- ・ぼうし
- ・運動ぐつ
- ・ハンカチ、タオル
- ・あみ、かご
- ・ムシよけ
- ・図かん



## 服と持ちもの

### ●ハンミョウ

にじ色にかがやくこの小さな虫は土の遊歩道で見られます。近づく少し飛んでにげ、また近づくにげるのくり返しです。道を案内しているようで「ミチオシエ」ともいわれます。大あごをもっていて、小さな虫を食べます。



### ●ミンミンゼミ

山をのぼっていくと、ミーン ミンミンミンの合唱が大きくなってきます。ずんぐりしたからで、水色のまだらもようがかっこいいミンミンゼミです。おなかを前後左右に動かして、元気よく鳴きます。



長い夏休み、どこにいきますか？虫たちでにぎわう須磨浦公園もいいですよ。須磨浦公園ではクマゼミの合唱が梅雨明けを知らせます。そのころの広場はセミ王国です。池にはトンボやヤンマもやってきます。山にあがると、花にチョウやハチたちが集まります。きれいな色をしたハンミョウやタマムシに会うかもしれません。やがて台風がいくつか通りすぎ、秋が近づいてくると、広場では大きくなったバッタたちが鳴き、山にわたりのチョウがやってきます。

## 須磨浦公園の虫たち

### ●アブラゼミ

ジワジワジワジワとねっこく鳴くセミです。茶色いはねをもち、広場から山の上までどこにでもいます。近づいてもすぐにげないので、つかまえやすいセミです。ぬげがらも、あちこちで見つかります。



### ●クマゼミ

梅雨があげると朝早くからシャインシャインとやかましく鳴くセミです。からだは黒くどのセミよりも大きいです。広場にもおおく、つかまえやすいセミです。大発生しますが、おぼんずぎにはもういなくなります。



### ●アオダグラタマムシ

玉虫色という言葉にはあいまいなヤツという意味もありますが、アオダグラタマムシのからだの色はかがやくような緑色です。これはCDと同じように、反射した光の色で構造色(こうぞうしよく)といわれます。



### ●コムスジ

横長のはねを広げて休みます。そのとき、ざっくりいうと「三」の形をした白い帯が目立ちます。ヒラヒラと羽ばたいては、スーと流れるように飛びます。幼虫(ようちゅう)はクズやフジの葉を食べて育ちます。



### ●ナミルリモンハナバチ

りり色と黒のまだらもようがあざやかなハチで、絵本にでてくる黄色いミツバチのイメージを、根底からくつがえされます。旗振山の花によくきます。「幸せを運ぶ青いハチ」とよばれることもあります。



### ●ヒメガマ

句碑(くひ)の近くの小さな池に生えています。春から夏にぐんぐん葉をのぼし、くきの先にふわふわした雄花(おなば)、少しはなれてソーセイジ型の雌花(めばな)をつけます。葉にヤンマのぬげがらがついていることがあります。



### ●ハラビロカマキリ

全身が平べったいからだのカマキリです。カマキリの目には、黒目があります。これはカマキリがこちらを注目しているのではなく、わたしたちにまっすぐ向いた複眼(ふくがん)の一部が黒く見えているのです。



### ●カゴノキ

須磨浦公園の山には、みきが白から茶色のモザイクになるカゴノキが多く生えています。シカのこどもともようがにていることから、鹿子(カゴ)の木と名前がついたようです。なおおかい木にはもようがありません。



### ●ショウリョウバッタ

草がある広場に足をふみ入ると、バッタたちが飛んでにげます。なかでも大型になるのがショウリョウバッタです。メスは特に大きくなります。オスははねを広げて飛ぶときにキチキチキチキチと音を立てます。



### ●アサギマダラ

あさぎ色は日本の色で、さわやかな青ともいいましょうか。アサギマダラのはねにも、あさぎ色が入っています。旅をするチョウともよばれ、わたり鳥のように旅をします。須磨浦公園には秋ごろくるようです。



### ●ジガバチの仲間

心配になるくらいおながかびれたハチです。成虫はイモムシに麻酔(ますい)して、土のあなに運び、たまごを産みます。ハチの幼虫(ようちゅう)は動けないイモムシをエサにあなの中で大きくなり、ハチになってでてきます。



### ●ヤブキリ

木のえだの上にはキリギリスの仲間がすんでいて、山の遊歩道を歩いていると、えだから急に飛びおりにくることがあります。ヤブキリは成虫になると肉食傾向(けいこう)が強くなり、セミを食べることもあります。



虫のぬげがらは、その気になれば、意外に見つかります。手にとって見ると、幼虫(ようちゅう)の足一本一本まできれいに残り、せいみつなもけいのようです。セミのぬげがらは木のみきや草にあり、なれると種類がわかります。クマゼミのぬげがらはアブラゼミとにいていますが、おなかにデベソがあります。トンボのぬげがらは水辺のヒメガマで見つかります。

## 虫のぬげがら

◎お問合せ  
(公財)神戸市公園緑化協会  
〒664-0163 神戸市須磨区緑台  
電話 078-795-5656

